

はじめに

本年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、全国で臨時休業措置が取られるなど、日常の教育活動が実施できなくなりました。それに伴い、児童生徒の学習を保障するため、オンラインを活用した遠隔学習の実施などの工夫が求められました。

本教育センターにおいても、年度当初に予定していた研修から集合研修が実施できず、代替措置を取らざるを得ない状況となりましたので、オンライン研修に対応できるように優先的に取り組みました。研修動画を録画し、オンデマンド形式で受講できるようにしたり、テレビ会議システムを用いて実施したりしました。

また、小学校では新学習指導要領が全面実施となり、「主体的・対話的で深い学び」の実現、プログラミング教育の充実などが求められています。さらに、新型コロナウイルス感染症拡大により、GIGAスクール構想の実現が加速され、来年度から一人一台端末が実現することになりました。ICTを活用すること自体が目的となることなく、ICTを活用した協働的な問題解決型学習を進め、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善を通して、子どもたちの資質・能力を育まなければなりません。

本年度の調査・研究発表会では、日本大学文理学部教授 藤平 敦先生が「学校の主役は一人一人の子どもたち」と題して、新学習指導要領において育成を目指す資質・能力の三つの柱のうち、「学びに向かう力」を育むために、日々の教育活動に子どもの自己有用感を育む視点を入れる必要性についてお話をしてくださいました。子どもの自己有用感が高まると意欲的に活動する傾向がみられるだけでなく、他者を攻撃する可能性が低くなり、いじめや不登校等が起こりにくい学習環境に結びつくそうです。

本教育センターでは、これらの喫緊の課題を踏まえ、本年度、オンライン講座を活用した効果的な研修の在り方、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、プログラミング教育に関する教材開発、不登校児童生徒への支援に関する研究に取り組み、その成果をこの「教育研究紀要」にまとめました。また、作成した教材、資料などは、ホームページにてダウンロードできるようにいたします。私どもの調査・研究の成果を、先生方の日々の教育活動において御活用いただくとともに、今後の調査・研究の進展のために忌憚のない御意見をお聞かせいただければ幸いです。

最後に、調査・研究を進めるに当たり、御協力と御支援をいただきました協力学校、研究協力者の皆様に心からお礼を申し上げます。

令和3年3月

愛媛県総合教育センター所長 水田 寿